

## 平成20年度 学校自己評価

「評価」欄の「A～D」…A（達成できた）・B（だいたい達成できた）・C（あまり達成できなかった）・D（達成できなかった）

学校教育目標	中・長期的目標	総合評価	
1. 真理と学問を愛し、豊かな知性に基いて正義と道徳とを重んずる精神を育成する 2. 清純高潔な品性と豊かな趣味とを育成する 3. 自分を理解し愛するとともに、自然及び他人に対する深い理解と愛情とを養う 4. 勤労の価値を自覚し、積極的に活動する人間形成に努める 5. 健康な身体と明朗で寛容な態度を養い、何事にも全力を尽くせる人間形成に努める	1. 基礎学力の定着を重視した進学校  2. 安心して学校生活を送れる環境  3. クラブ・生徒会活動で自己を生かせる学校  4. 地域に開かれた学校	3年生とその保護者を対象に「満足度調査」を実施。4つの中・長期的目標を軸にA～Dの4段階で評価したところ、次の結果が得られた。 1について、（生徒）A：20% B：50% C：21% D：7% （保護者）A：26% B：49% C：20% D：5% 2について、（生徒）A：33% B：51% C：12% D：2% （保護者）A：55% B：36% C：9% D：0% 3について、（生徒）A：32% B：53% C：9% D：3% （保護者）A：37% B：52% C：11% D：0% 4について、（生徒）A：22% B：55% C：19% D：3% （保護者）A：21% B：60% C：19% D：0% 加えて、合格（内定）した進路への満足度、「（生徒）本校での高校生活に満足している」、「（保護者）本校に入学させてよかった」という質問への肯定的な回答はかなり高い数値となった。クラブ活動での実績、「日滝の杜」による広報、学習面での取り組みが評価されたものと考ええる。反面、家庭学習の定着、「確認テスト」の充実、センター試験に対応できる学力の養成、地域の教育力の活用等は引き続き重要課題として実践する必要がある。	
	本年度の重点目標	評価（成果と課題）	A～D
	1. 基本的生活習慣の定着を図り、集団生活における態度、行動を養う。	機をとらえて頭髮指導を実施してきたが、一定の効果は出ていると思われる。始業と同時に授業を始める態勢も定着しつつある。集会時の聴講態度も改善されてきた。しかし、どれも教師の強い働きかけが不可欠であり、自律的な姿勢を期待したい。登下校時及び座学授業でのジャージ姿については、保護者や近隣から指摘を受けるが、状況に応じた身だしなみを判断する力を養う指導を心掛けたい。	B
	2. 他人への思いやりやルールを守り、健全な社会人としての態度を育てる。	挨拶の励行はかなり定着してきた。携帯電話に直接関わる問題は報告されていない。交通マナーの改善は引き続き重要な課題として取り組む必要がある。	B
	3. 生徒の希望する進路実現を図るため、多様な学習環境を整えて学力の向上を目指す。	90周年に絡めて学習室を整備することができた。それにより、テスト前の学習室利用が増えた。1,2年生全員が英語・漢字・数学検定のどれかを受験する体制が整い、身近な目標ができた。学習合宿が定着した。基礎学力定着のための「確認テスト」が本格的に動き出したが、今後さらなる工夫が必要である。家庭学習充実と学習・進路へのモチベーションを上げるために、定期考査「ルーティーン」の取り組みを始めたが、これも定着させる必要がある。	B
	4. 「住民生徒懇談会」と「保護者職員生徒懇談会」を充実させていく。	「住民生徒懇談会」は近隣住民に案内状を配布して開催したものの、出席者は2名（昨年度は3名）であった。子供が須坂東高校に通っていない限り、校内（同窓会室）に入りにくい、あるいは関心が低い、ということがあるかもしれない。「保護者職員生徒懇談会」は年曆に入れておいたにもかかわらず、開催せずじまいになってしまった。懇談会の趣旨の確認から再スタートを考えたい。	C
5. 全校生徒に対して委員会、クラブの活動を宣伝し、意欲的に参加してもらおう。また、活動の様子を地域にもPRしていく。	本年度平成20年5月15日を創刊Vol.1とする「日滝の杜たより」は臨時増刊号も含め当初の予定の2倍の発行である計6号を発行するにいたり、本校の様子、特にクラブ活動の活躍振りを須坂市・中野市・長野市等の中学生諸君に知らしめるものとすることができた。また、ホームページの頻繁でタイムリーな更新により本校の活躍の様子を地域や校内に発信することができた。	A	
6. 文教地区を利用した小中高の連携。	文教地区を利用した小中高の連携の一步として、近隣の常盤中学校との連携を模索し互いに意思疎通を図るまでにはできなかったが、実際のアクションに至ることはできなかった。新年度の実現に向けて今後努力したい。ただし、「日滝の杜たより」が功を奏し常盤中学校の先生方や生徒諸君の注目が本校に集められ、連携の為の素地はできつつあると思われる。	C	

分掌	評価の項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A～D	改善点・向上策
教務	本校の中長期目標「基礎学力の定着を重視した進学校」「安心して学校生活を送れる学校」「クラブ・生徒会活動で自己を生かせる学校」「地域に開かれた学校」が着実に達成されるようサポートする。	a 進路、生活指導、生徒会係を含む学校運営委員会の力を借りながら中長期目標の達成率を高める。 b 達成率アンケートを実施しP D C Aのサイクルを実現する。	a 学校運営委員会の前向きな姿勢によって中長期目標達成のために具体的に動き出すことができた。特に、「基礎学力の定着を重視した進学校づくり」に関しては「学習オリエンテーション」「定期テストのルーティーン化」、立案、実施するなど新年度実施にむけて着実に進めている。  b 満足度調査の実施、達成率調査の内容・実施時期については学校運営委員会に移管し、実施する。この項目に関しては、着実に前進している。	B	aとbに関して、達成率調査を対職員・生徒・保護者にし、その検証から更に力を入れるべきところや目標達成に向けた改善策が見えてくると考える。3年生は家庭研修に入る直前の1月中旬、1・2年生は2月初旬に調査するべく準備する。  調査結果を分析し、その結果を生徒・保護者・教職員が共有することが肝要である。
	授業・考査を大切にす校風を確立する。	a 授業時間の厳守を呼びかける。 b 「欠課・遅刻・早退連絡票」活用を徹底する。 c 考査一週間前を考査強化週間とする。 d 確認テストが意味あるもの(基礎学力の定着・家庭学習の習慣化を目的とするもの)として定着させる。 e 授業アンケートを年2回行う。また、それがP D C Aのサイクルに乗るものにする。	a 始業と同時に授業を始める職員の姿勢が功を奏し、職員生徒共に授業時間の厳守はなされている b どの教科でも活用し、担任への欠課連絡はなされている。が、一部徹底されていないところがあったため、注意し改善した。 c 月曆に考査前一週間を「学習週間」として明記し生徒への意識付けを行った。 d 確認テスト用課題が「基礎学力定着」「家庭学習習慣化」に沿ったものであることの再確認が必要である。 e第1回目のアンケートは2学期に反映されるよう6月の下旬から7月上旬に全員実施した。	A B B C B	観点c d に関して、教科指導や確認テスト問題の質について、もっと教科に踏み込んだ要求や意見をすることが大切であり、そのためには「学習指導委員会」の積極的な協力を得ることが必要である。  授業アンケートとあわせて学校満足度調査、目標達成率調査を実施し、その結果を分析することで次に生かしていく流れの確立が必要である。この点の業務に関しては今年度から学校運営委員会に移管したい。
	須坂東高校の積極的なP R活動をを行い、多くの方、特に須高地区の中学生やその保護者に本校の良さを知ってもらおうよう努力する。。	a P Rパンフ「日滝の杜たより」作成チームを作り、年3回近隣の中学に配布する。 b 生徒会と協力し中学生にとって魅力ある体験入学を企画運営する。 c 学習指導委員会と協力し、公開授業に多くの中学生とその保護者に足を運んでもらえるようにする。	a に関してはプロジェクトチームが既に6回「日滝の杜たより」を発行しており中学校へのP Rは当初の計画以上に積極的に行うことができた。 また、HPの頻繁な更新・内容の充実を力をつけ、「日滝の杜たより」とともにクラブ活動の活躍や本校の様子をタイムリーにP Rできた。 b 生徒会が案内のスタッフとして中心的な役割を果たす、個人やクラブがP Rパフォーマンスを積極的に行うなど、魅力ある体験入学が企画できた。 c 中学校の行事と重なったため企画した公開授業が開散としたものになってしまった。	A A D	a 「日滝の杜たより」が新年度も継続的に発行されるよう現段階から内容を考えておくことが大切である。他校のHPを研究しHPの更なる充実を図る。 c については近隣中学校の年間行事予定をチェックし企画が有意義なものになるよう注意する。公開授業がより有意義なものになるために学習指導委員会へ働きかけ協力をすすめる。
進路指導	3年間を見通した進路指導	a 適切な進路指導計画を立てることが出来たか。 b キャリア教育を意識した指導が出来たか。 c 適切な時期に適切な指導が出来たか。	a 昨年度の良いところを踏襲し、反省すべきは反省した計画を立てることが出来た。 b ジュニアインターンシップ、一日看護師体験、職業理解のための進路説明会(進路ガイダンス)、PTAによる進路講座(東進学舎)、大学短大出前講座(東進学舎)を実施することが出来た。 c 進路希望調査、進路講演会、進学説明会、卒業生と語る会などを適切な時期に実施することが出来た。	B	a 1年の段階で3年まで見通せる進路指導計画を構築する必要がある。 b キャリア教育を実施する意義を踏まえて、明確な流れを構築する必要がある。 c 全学年で生活・学習意識実態調査をして、生徒の実態を把握した指導をする必要がある。
	適切な情報提供と情報の共有化	a 「進路便り」を出すことによって、保護者の協力を得て意識啓発ができたか。 b 進路資料室を整備できたか。 c 学年連携が円滑に行われたか。	a 定期的に「進路便り」を出すことが出来た。保護者への情報提供が課題である。 b 分かりやすい資料の配置に心掛けたが不十分だった。 c 1年から3年までの進路係が同室に常駐することにより進路の流れを共有することが出来た。	A	a 今年度を参考に、来年度の「進路便り」がより充実するように工夫する。 b 今の施設では限界にきている。資料室を広くして、パソコンを備えるなど施設面を改善する必要がある。 c この流れを踏襲する。
	進路希望を叶えるための手立て	a 適切な面談・三者懇談が行われ、意欲の喚起が出来たか。 b 生徒の学力・生活実態を把握して基礎学力の定着がなされたか。 c 一般試験に耐え得るための補習を充実させることが出来たか。	a 年2回の保護者懇談と定期的な面談により、生徒の意欲と希望を把握し、やる気を引き出すことが出来た。 b 校外模試や生活実態調査などを実施し、それを分析して生徒への指導に生かしたかったが、不十分だった。 c 土曜補習などへの参加が少なく、進路実現に向けた雰囲気作りと指導がもう一歩だった。	C	a 今後は回数と内容を充実させる方向で改善する。 b 基礎学力を定着させる手立てとして「学習オリエンテーション」と「定期テスト前後のルーティーン」を導入する。 c 生徒の実態に合った指導法を構築する必要がある。

分掌	評価の項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A～D	改善点・向上策
生活指導	基本的な生活習慣の確立	a 頭髪指導等を通して学校生活にふさわしい身だしなみを確立できたか。 b 遅刻指導を通して授業への取り組み態勢を確立できたか。 c 交通安全週間や交通安全講話を活用して交通ルールやマナーを確立できたか。	a 機をとらえて指導を実施。特に頭髪指導では効果が出ていると思われる。b 始業と同時に授業を始める態勢が定着しつつある。c 交通講話の聴講態度や日頃の交通マナー改善は課題であり、特に全体的課題の自転車事故防止には継続して取り組む必要がある。	B	c 交通安全委員会を中心に生徒を活用しつつ、交通安全への意識啓発を継続して実施する必要がある。特に自転車事故防止を重視したい。
	いじめや盗難等の問題行動を起させない学校環境作り	a 校内巡視等を通して盗難を未然に防止することができたか。 b 関係機関・分掌が連携して、いじめ・不登校問題への支援協力体制を構築することができたか。 c 携帯電話のマナーを啓発し、それに関わるトラブルを未然に防止することができたか。	a 一時頻発した現金盗難も巡視等の取り組みにより、改善された。b コーディネーターを中心として、外部機関も含めた支援協力体制づくりに力を注いだ。発達障害についての職員研修会を2回実施した結果、職員の意識はかなり高まった。c 携帯電話に直接関わる問題は報告されていない。	B	a 盗難が発生した際の迅速な対応、未然に防ぐ監視体制、自己管理を指導しつつも被害生徒の感情に配慮した指導を心掛ける。b 外部機関との連携も含めた支援協力体制をさらに充実させる。c 携帯電話を巡る問題については、早期の啓発活動を心掛ける。一例として、入学予定者及び保護者への講話を企画したい。
学習指導	授業内容の工夫	a 生徒の実態や希望進路をふまえた教材選択や授業内容であるか。 b 生徒が積極的に学習活動をおこなっているか。 c 公開授業や授業アンケートを活用できたか。 各種研究会に積極的に参加できたか。	c 外部への公開授業を、教務係と協力し例年より多く行った。校内向けには11月に公開授業週間を設け、実施した。授業アンケートは1学期末と年度末に行った。 d 学校視察や他校の公開授業、進路研究会等に参加した。	B	a b 引き続き研究していく必要がある。 c 公開授業の見学者が少なかった。保護者にも参観してもらえ工夫・宣伝や、日程等中学校との連携を図る必要がある。授業アンケートについては各教科で分析するなど、有効に活用することを考えたい。 d 参考になることは積極的に取り入れたい。
	検定の実施	a 生徒の実態や希望進路をふまえた検定が実施されているか。 様々な機会を利用して検定学習ができたか。	a 総合的な学習の時間を利用して検定学習を行い、全員が何かしらの検定を受験した。	B	a 合格率アップを目指して有効な学習法を模索する必要がある。検定合格を増加単位として認定するか、検討していきたい。
	補習の実施	生徒の希望進路や学力定着の要望に応じた補習が実施されているか。 a 成績不振者のための補習 b 基礎学力定着のための補習 (おもに1, 2年) c 入学試験のための補習(3年) d センター試験に対する補習(3年) e 進学後に必要な補習(3年)	a 保護者懇談会午後などを利用して行った。 b 確認テストが定着しつつある。学習合宿(2年)や夏季補習(1・2年)を行った。 c 例年より早く、参加者も多く実施した。 d 土曜日、保護者懇談会午後、年始休業等を利用して行った。 e 今後実施予定	B	b 1年経過した時点で総括し、来年度に向けて目的・方法・成績のつけ方等を再確認する必要がある。 c d e 参加人数を増やす工夫、入室しやすく使いやすい学習室を整備する必要がある。 d レベルアップを図る必要がある。

分掌	評価の項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A～D	改善点・向上策
教育課程	平成21年度教育課程表の作成	a 本校の学校目標のひとつである「基礎学力」の育成が可能となる教育課程を検討し、平成21年度入学生から適応したい。	平成21年度教育課程表が本年度承認され、来年度1年生より施行されることとなった。「基礎的学習」を意識したカリキュラムとなっていると自負している。	A	次年度以降、平成22年度2学年の文理分けを類型化または系列化する方向で考えてその具体案を明示していきたい。
	平成19年度および平成20年度入学生教育課程表の一部変更	a 前年度より懸案となっている現行教育課程の一部変更を検討し、平成21年度施行に向けて随時修正する。	今年度2学年および1学年と協議の末、新教育課程が出来上がる来年度については過渡期につき現行教育課程のマイナーチェンジにまで踏み込むのはいささか煩雑すぎるとの結論が出た。	B	来年度2・3学年の教育課程と1学年の教育課程の移行期にあたってそれぞれ教科の持ち時間数にバラつきが生じるが、その詳細なデータを作成していかなければならない。
生徒会	生徒間の相互理解	a 執行部会(東高祭係長会)が意見を広く求め、生徒が前向きに応じる関係ができたか。 b クラブ活動の努力や成果を伝えあい、たたえあう機会を持つことができたか。	a 執行部通信の内容が充実しており、発行部数も多かった。 b 部活動の活躍に応じて壮行会を数多く出来た。また、新人戦の県大会結果報告を昼の放送で行った。	B	a 執行部側からの発信の充実だけでなく、全校生徒からの受信の充実も今後の課題である。 b 1年間を通して、部活動の活動に応じた的確に壮行会を開くことができた。
	生徒間の協力態勢	a 執行部会(東高祭係長会)がその内部で、クラスやクラブに対して計画を明示し、積極的な参加を促すことができたか。	a 東高祭ではクラブ・クラスの協力が得られた。また、全校生徒が参加できる企画もあった。	B	a 生徒総会や壮行会では生徒の私語が多かった。しっかり聞くこと、参加することを促していく必要がある。
	職員から生徒への支援態勢	a 生徒が職員に目的を相談し、職員がそれを受けて連絡を取り合い、活動後には生徒が自ら反省を報告する関係ができたか。	a 時間的な制約もあって、職員と生徒が携帯電話で直接連絡を取り合うだけで済ませてしまう場合もあった。	B	a 次期生徒会への申し送りをきちんとさせる必要がある。
	生徒会活動の見直しと改善	a 行事ごとに反省を行い、他校の実践にも学んで、より良い生徒会活動を目指せたか。	a 一部の生徒が他校の文化祭を見学するなどの活動はあった。 a 行事ごとに反省を行うという点は徹底しなかった。	B	a 執行部反省用紙を充実させ、申し送りの記録化が課題である。
	保護者や地域とも連携した、自らの学習環境を整える姿勢の育成	a 生徒会として学校施設やその周辺での環境整備活動を行うことができたか。 b 保護者職員生徒懇談会や住民生徒懇談会を通じ、生徒会のあるべき姿について考え、行動することができたか。	a 須坂駅前クリーン作戦、校内プール横トイレの整備、臥竜公園の清掃などに積極的に参加した。 b 住民生徒懇談会では、出席者が多くはなかったが、生徒会活動に対する示唆に富む意見をいただけた。一方、保護者職員生徒懇談会については実施しなかった。	B	a 近隣住民の要望を踏まえ、学校周辺の美化、交通マナーの改善に取り組む必要がある。 b 年曆に入れてある行事を実施していないのはよくなかったが、懇談会の趣旨の確認を要するものもある。

分掌	評価の項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A～D	改善点・向上策
美化	教室内の美化	a 毎日の清掃が行われているか。 b トイレ・昇降口・階段の汚れやすい箇所・ほこりのたまりやすい所を重点的に点検する。	a 全般的に良くとりくんでいると思う。教室によっては1日の授業終了後の黒板の整備がととのっていないところがある。	A～D B	清掃当番の指導を徹底していく。
		c ゴミの分別が行われているか。	b 昇降口を綺麗に修繕していただいた為に清掃後の効果が大きい。c 分別用のゴミ箱があるため良好である。	A	気を抜かずに更に丁寧にとりくむように指導していく。
		d 清掃用具は充実しているか。	d 各教室、トイレ、の用具と用具掛け等の点検補充をしてよかった。	A	今後も必要に応じて用具の補充と点検をしていく。
	校舎内(教室以外)の美化	a 毎日の清掃が行われているか。	a 特別教室などでは、監督がきちんと指導しているところと、そうでないところの差が大きい。	C	各清掃分担区の監督のきめの細かい指導をお願いしていく。
		b ゴミの分別が行われているか。	b ゴミ箱が不足なく設置されている場所は良いが、不足している場所には補充したいと思う。	B	適宜、点検をおこない不足のないように補充していく。
		c 清掃用具は充実しているか。	c 十分とは言えないが整備された。	B	適宜、点検をおこない不足のないように補充していく。
	校舎外(校地内)の美化	a 毎日の清掃が行われているか。 b 部室周辺の雑ゴミ、落ち葉等は定期的に部室清掃、一斉清掃時に取り組む。	a 十分とは言えないが一斉清掃などで補っている。	B	a, b, については、生徒会執行部の生徒と職員に朝清掃をしていただいております。
		c ゴミの分別が行われているか。	b ゴミの種類が限られているため良く分別できている。	B	ゴミステーションでの美化係当番が毎日点検、指導、仕分けを徹底しているため良く分別できている。
		d 清掃用具は充実しているか。	c 十分とは言えないが整備された。	B	不足部分については適宜補充していく。
学校評議員会	家庭・地域との連携	a 本校は地域にとって身近な存在として感じられているか。 b 本校の教育活動全般に関する情報が、家庭・地域に十分に伝わっているか。	a, b 中学生対象に発行している「日滝の社より」が同窓会PTA地域の方にHP等を通じて読まれているという点では、徐々に本校の教育活動全般に関する情報が外に伝わりつつあるのではないかと考えている。	A	対保護者への情報発信については学年・PTAとともに考えていく必要がある。また、ホームページの頻繁な更新やデザイン等の工夫を更に進めていくべきである。
	学校評議員制度	c 本校の学校評議員の運営は、教育活動並びに学校運営の向上に有効に機能しているか。	c 第1回学校評議員会では本年度1学期の教育活動内容をパワーポイントにまとめ発表、活動や成果がよく理解できたと好評であった。また、委員に初めて授業を公開したことで、評議員から今まで以上に厳しいご意見や具体的なアドバイスをいただくことができ、表層的なものにならず、有意義な会議になった。第2回学校評議員会では、第1回でアドバイスをいただいた「学校満足度調査」の総括を行うことができた。本年度は本制度が有効に機能したと言える。	A	本年度の学校評議員会で提案され、その後実施した「学校満足度調査」の結果を分析し、次年度学校運営のPDCAサイクルに生かすよう学校運営委員会がリーダーシップを発揮する。

分掌	評価の項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A～D	改善点・向上策
1 学年	基本的生活習慣の確立	a 欠席・遅刻を極力少なくすることができたか。 b 頭髪・服装等の身だしなみを高校生らしくするよう指導ができたか。	a, b共に、多くの生徒は良いが、一部にゆるみが見られる。	B	気持ちのゆるみが全体に広がることのないように指導していきたい。
	学習に対する取り組み	a 日々の授業を大切にする姿勢を身に付けさせたか。 b 家庭学習を定着させるよう指導ができたか	a 授業を大切にしているが、一部に集中力を欠いた生徒が見られ、徹底されないところが残っている。 b. 家庭学習の定着が不十分。	B	確認テストに対する事前・事後の学習等を通して、家庭学習の定着を工夫したい。
	特別活動への取り組み	a 部活動や生徒会活動に積極的に参加させ、個性を伸ばし、仲間と協力して目的を達成させるよう指導ができたか	部活動や生徒会活動は現在のところよく取り組んでいる。	B	現在の指導を継続したい。
2 学年	教室内の美化	a 教室の机を他クラスの生徒と共有する現状を理解し、自分と他人とが共に学習しやすい環境を作り出そうとする姿勢が生徒の中に育まれているか。	放課後の清掃活動もそれなりに取り組んでおり、教室内外の美化もさほど問題はない。ただ、机上に私物を置いている生徒がいるので、指導したい。	B	各クラスとも、週番の仕事を再確認させたい。教室の鏡である黒板の美化と冬季のストーブの管理に重点を置きたい。
	学習相談	a 昼休みや長期休業前後の懇談で個々の状況を把握し意欲的に3年次の選択科目を選ぶ姿勢を確立するよう指導できたか。	多忙の中、放課後等を利用して、各担任が個人面談を実施してきた成果が現れてきた。ようやく、3年次の科目選択のまとめ段階に入ってきた。12月の懇談会で、具体的な進路の目標を立てさせたい。	B	上級生を見て、安易に推薦制度を利用したい考え方の生徒が多い。学校として推薦すべき人物像を、学年としてもはっきり生徒に示したい。
	進路に対しての情報提供	a 個々の進路選択に対して、個人懇談等を通し各自の進路にあった情報を提供し、適切な指導ができたか。	学年として、修学旅行明けに進路主任より進路講話をして頂き、生徒には大変好評であった。いよいよ進路モードに切り換えさせたい。	B	生徒自ら進路室を利用するなり、学年としても早めの準備を心がけたい。外部講師を招くことも考えたい。
3 学年	社会常識	a 挨拶、入退出・交通のマナーの指導ができたか。 b 服装、頭髪などの身だしなみの指導ができたか。 c 提出物の期限を守らせる指導ができたか。	a 挨拶、入退出・交通のマナーについては1年を通して概ね良かった。 b 後半、進路の決まった生徒の一部にピアスや髪を染めるなどやや気の緩みが見られる生徒もいたが、1年を通じて大きな問題も無く落ち着いていた。 c 提出物の期限を守ることはよくなってきているものの、まだ一部生徒に守れないものがいた。	B	a, b, c とともに卒業まで更に指導を継続したい。
	進路実現・学習に対する取り組み	a 生徒の進路実現のために、資料の提供・アドバイスなど側面から支援することができたか。 b 机の周りなどを整理整頓させ、学習に集中できる環境を整える指導ができたか。	a 生徒の進路実現のために、資料の提供・アドバイスなど1年を通じて良く行うことができ、概ね生徒の希望に添えた。 b 机の周りやロッカーの上などの整理整頓はだいぶ良くなり、この習慣が定着してきた。	A	a, b とともに卒業まで更に指導を継続したい。
	自発性・責任感	a 進路実現のため自発的な行動を促す指導ができたか。 b 積極的に部活動・生徒会活動に取り組ませ、個性を伸ばし、責任感をもたせる指導ができたか。	a 進路実現のため生徒自ら進路先を調べたり、進んで学習するなど自発的な行動をするようになってきた。 b 積極的に取り組む姿勢がみられ、以前より良くなってきている。	A	a, b とともに卒業まで更に指導を継続したい。